

令和 7 年度 定期作況報告

〈令和 7 年 5 月 20 日現在〉

地方独立行政法人北海道立総合研究機構
農業研究本部 道南農業試験場

1. 気象経過

根雪始は平年に比べ 3 日早く、根雪終は 6 日早く、積雪期間は平年より 3 日短かった(表 1)。

4 月下旬：平年と比較して、平均気温は 1.0℃低く、最高気温は 3.0℃低く、最低気温は 1.4℃高かった。
降水量は 36.5mm で平年の 203%、日照時間は 37.2 時間で同 54%だった。

5 月上旬：平年と比較して、平均気温は平年並、最高気温は 0.7℃低く、最低気温は 0.8℃高かった。降
水量は 36.0mm で平年の 173%、日照時間は 63.1 時間で同 93%だった。

5 月中旬：平年と比較して、平均気温は 0.8℃高く、最高気温は 1.1℃高く、最低気温は平年並であった。
降水量は 10.0mm で平年の 39%、日照時間は 54.5 時間で同 81%だった。

以上、平年に比べ平均気温は平年並で、最高気温は 0.8℃低く、最低気温は 0.8℃高かった。降水量は
82.5mm で平年の 128%、日照時間は 154.8 時間で同 76%だった(表 2)。

表 1 季節調査

項目 年次	前年		本年							
	初 霜 (年月日)	根雪始 (年月日)	根雪終 (年月日)	積雪期間 (日)	降雪終 (年月日)	耕鋤始 (年月日)	晩 霜 (年月日)	初 霜 (年月日)	無霜期間 (日)	降雪始 (年月日)
本年	R6.10.21	R6.12.11	R7.3.1	81	R7.3.31	R7.4.09	R7.4.06			
平年	10.23	12.14	3.7	84	4.16	4.08	4.26	10.23	179	11.11
比較	▲ 2	▲ 3	▲ 6	▲ 3	▲ 16	1	▲ 20			

注 1) 耕鋤始は農試データ、それ以外は函館地方気象台（函館市美原）の観測値を使用した。
ただし、晩霜は函館地方気象台の観測値に基づく推定値(最低気温が 1.3℃以下)とする。
注 2) 平年値はてん蔵（前 10 か年）による。
注 3) 比較の▲は「早」を示す。
注 4) 降雪終および晩霜の本年値は、5 月 20 日現在においては未確定である。

表 2 気象表

調査項目	4月下旬			5月上旬			5月中旬			平均または合計		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
平均気温(℃)	8.7	9.7	▲ 1.0	11.5	11.5	0.0	13.8	13.0	0.8	11.3	11.4	▲ 0.1
最高気温(℃)	12.4	15.4	▲ 3.0	16.4	17.1	▲ 0.7	19.8	18.4	1.1	16.2	17.0	▲ 0.8
最低気温(℃)	5.2	3.8	1.4	6.6	5.8	0.8	8.0	7.8	0.2	6.6	5.8	0.8
降水量 (mm)	36.5	18.0	18.5	36.0	20.8	15.2	10.0	25.7	▲ 15.7	82.5	64.5	18.0
日照時間(hr)	37.2	68.6	▲ 31.4	63.1	67.9	▲ 4.8	54.5	67.3	▲ 12.8	154.8	203.8	▲ 49.0

注 1) 観測値は北斗市のアメダスデータによる。平年値は前 10 か年の平均値である。
注 2) 比較の▲印は「低」または「少」を示す。

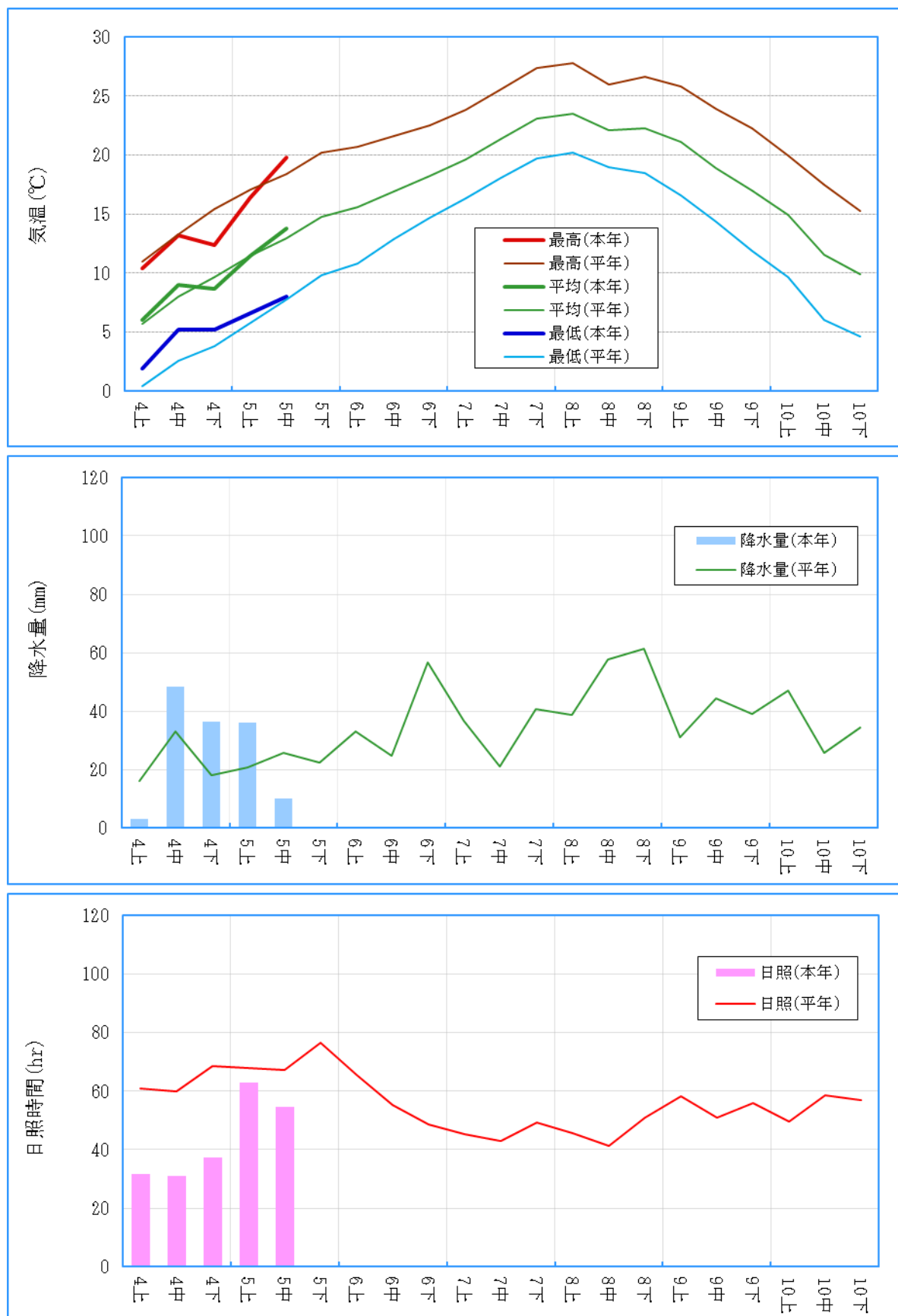


図1 気温、降水量及び日照時間の平年との比較(令和7年、北斗市)

2. 作況（水稻）

5 月 20 日：やや良

事 由：播種は平年より 1 日遅い 4 月 23 日に行った。出芽までの日数は平年並で、出芽期は 4 月 28 日であった。育苗期間中、4 月下旬はやや低温で寡照、5 月上旬は平年並の気温で寡照、5 月中旬はやや高温で寡照であり、全体として平年並の気温で寡照であった。移植は平年並の 5 月 20 日に行った。移植時の苗の形質において、草丈は「ふっくりんこ」は平年より短く、「ななつぼし」は長かった。葉数は 2 品種ともに平年より多く、茎数は「ふっくりんこ」は多く、「ななつぼし」は少なかった。地上部乾物重は 2 品種ともに平年を上回った。苗の充実度を表す地上部乾物重/草丈の値も 2 品種ともに平年を上回っていた(表 3)。以上のことから、現在の作況は「やや良」である。

注)本作況は、道南農業試験場における平年値に対する水稻の生育良否に基づいたものであり、渡島・檜山を代表するものではありません。

表3 水稻の生育

品 種 名 項 目 / 年次		ふっくりんこ			ななつぼし		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
生 育 期 節	播種期 (月日)	4.23	4.22	1	4.23	4.22	1
	出芽期 (月日)	4.28	4.27	1	4.28	4.27	1
	移植期 (月日)	5.20	5.20	0	5.20	5.20	0
	幼穂形成期 (月日)		6.30			6.26	
	止葉期 (月日)		7.16			7.14	
	出穂期 (月日)		7.25			7.23	
	成熟期 (月日)		9.13			9.06	
	穂揃日数 (日)		6			6	
	登熟日数 (日)		50			46	
	生育日数 (日)		144			137	
移 植 時	草丈 (cm)	13.3	14.5	▲ 1.2	16.0	13.9	2.1
	葉数 (枚)	3.7	3.4	0.3	3.6	3.4	0.2
	茎数 (本/個体)	1.73	1.30	0.43	1.00	1.11	▲ 0.11
	地上部乾物重 (g/100本)	3.22	2.94	0.28	3.64	2.91	0.73
	地上部乾物重/草丈	0.24	0.20	0.04	0.23	0.21	0.02
本 田 生 育	草丈 (cm)	6月20日	34.4		35.1		
		7月20日	79.2		82.5		
		8月20日	92		92.7		
	葉数 (枚)	6月20日	7.8		7.9		
		7月20日	10.5		10.5		
		8月20日	10.6		10.6		
	止葉葉数 (枚)		10.6		10.6		
	茎数 (本/㎡)	6月20日	566		501		
		7月20日	792		694		
		8月20日	712		647		
成 熟 期	稈長 (cm)		77.9		76.2		
	穂長 (cm)		16.2		16.4		
	穂数 (本/㎡)		707		643		
収 量 構 成 要 素	一穂粒数 (粒)		47.9		51.6		
	㎡当粒数 (×1000)		33.9		33.2		
	稈実歩合 (%)		93.7		94.3		
	㎡当稈実粒数 (×1000)		31.8		31.3		
	同上平年比		100		100		
	登熟歩合 (%)		80.3		78.8		
	粒摺歩合 (%)		73.9		76.7		
	屑米重 (kg/a)		6.1		4.0		
	屑米歩合 (%)		9.5		6.2		
	精玄米千粒重 (g)		22.5		21.5		
	わら重 (kg/a)		65.6		65.8		
	精粒重 (kg/a)		77.6		77.9		
収 量	精玄米重 (kg/a)		57.3		59.7		
	収量平年比 (%)		100		100		
	玄米検査等級 (等)		2上	—	1下		—

注1) 平年値は前7年間の令和4年(2022年、最豊年)、平成30年(2018年、最凶年)を除く5年の平均値を用いた。

注2) 苗は中苗紙筒、栽植密度は25.3株/㎡ (33cm×12cm)、1株3本植え。

注3) 本田にはN、P₂O₅、K₂O成分をそれぞれ7.5、9.1、6.5(kg/10a)施用した。

注4) 篩目は1.90mmを使用し、精玄米重、千粒重とも水分15.0%に補正した。

注5) 登熟歩合は比重1.06の塩水で調査した。

注6) 比較の▲印は「減」または「早」を示す。